

平成20年11月21日

生駒市議会議長 井上充生 殿

都市建設委員会委員長 福中眞美

## 委員会調査報告書

当委員会で調査した事件の調査結果について、生駒市議会会議規則第107条の規定により、下記のとおり報告します。

### 記

- 1 派遣期間 平成20年11月7日(金)
- 2 派遣場所 大阪府交野市
- 3 事 件 (1) 緑の保全について
- 4 派遣委員 福中眞美、西口広信、浜田佳資、角田晃一、八田隆弘
- 5 欠席委員 酒井 隆
- 6 概 要 別紙のとおり

## 別紙

視察先	大阪府交野市
施策等の名称	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 里山指導員育成講座について</li> <li>2 花と緑のボランティア育成講座について</li> <li>3 いきものふれあいの里（現地視察）</li> <li>4 交野山森林公園</li> </ol>
視察の目的	<p>交野市では、里山指導員育成講座の修了生によって、いくつかのボランティア団体が結成され、竹の伐採、竹炭づくり、植樹、間伐等の活動によって荒れた里山を豊かな森に再生する里山保全活動が展開されており、本市の里やまボランティア入門講座の展望の参考とする。また、花と緑のボランティア育成講座は、草花や樹木の特性、園芸の知識や技術などを実習し、修了生が、地域でリーダーとして活躍していただくことを期待するものであり、ボランティア団体の育成・支援等について本市との比較調査を行う。</p>
施策等の概要	<p>◎「里山指導員育成講座」</p> <p>里山の保全を図るには、行政や地権者のみでは到底守ることは不可能に近い状況の中、市民参加を得て市民、地権者、行政が一体化した保全活動を展開しなければ守れないと認識し、平成12年度より市民対象にした、里山指導員（ボランティア）育成講座を開設する。</p> <p>受講生には、一定の知識や技術を習得してもらうとともに、「森の案内人」として保全活動に取り組むリーダーとして活動してもらえるよう、毎年、里山指導員育成講座を継続して開催している。</p> <p>◎「花と緑のボランティア育成講座」</p> <p>草花や樹木の特性、園芸の知識や技術などを実習しながら学び、講座終了後も花苗づくりや花壇の管理活動をするボランティアを育成する。</p>
考察	<p>市の面積の1/2が森林など緑地であることから、市民の緑地に対する関心度は高いと考えられる。</p> <p>交野市主催の「里山指導員育成講座」は、2年目からは定員20名は抽選になっている。市が主催する講座等は、終了後の活動なども考える必要があり、自ら受講したいと思えるような魅力的な講座にする必要がある。</p> <p>交野市では「花と緑のボランティア育成講座」を開催し、花苗を育て、公共花壇や街路部の植栽・管理等をしている。花と緑のまちづくりを推進するための活動場所（花のまちづくりセンター）が本市でもあることから、花と緑のボランティアの育成講座や活動内容も参考になると考える。</p> <p>企業の協力を得て緑の保全を進めるシステムを、生駒市も導入する必要</p>

	がある。
委員の意見等	<p>◎本年度より実施している「里山ボランティア講座」終了後に、受講生が自主的にボランティア団体を立ち上げたいと思えるような講座を開催するとともに、活動場所の提供も重要であることから、交野市で学んだことを提案する。地権者への働きかけも重要である。</p> <p>◎オムロンが大阪府のアダプトフォレスト制度を活用して、今後5年間森地区の森づくりを行うが、関西では他に和歌山県、大阪府（開始05年度）・京都府（同07年度）などが取り組んでいる。残念ながら奈良県では未だ実施されていない。本市としては、県に働きかけ同制度の導入を図るべきと考える。</p> <p>◎環境NPOの育成については、本市の「里山ボランティア講座」（11月8日開講、全5回）を活用し、受講生の中から一人でも多く、今後NPOを立ち上げ環境保全に関わってもらえるように講座の内容等も考えて行く必要があると考える。</p> <p>◎保全している自然の中にセンターとなっている施設があった。こういった施設は、各ボランティア団体にとっても便利であるとともに、各講座や市民の方々に来ていただき自然を体感していただくために有効ではないか、と感じた。生駒市では、山麓公園のふれあいセンターと竹林公園の施設が2大拠点になり得るのではないか。</p> <p>◎ボランティア団体が市民の自主的取り組みにより設立され、活動している。こういった市民のやる気と力を信頼し、そこに依拠する発想が行政に求められる。</p>